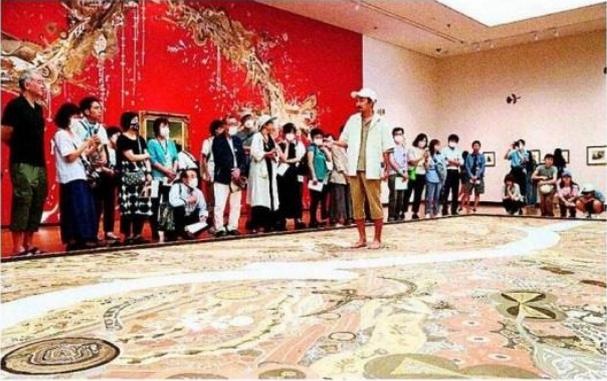


年 組 名前：

「移動と輸送」狙い語る
ミレー特別展 制作者・浅井さん



甲府・県立美術館で開催中の開館45周年記念特別展「ミレーと4人の現代作家たち-種にはじまる世界のかたち-」(県立美術館・山梨日日新聞社・山梨放送主催)に合わせ、出品作家が作品について解説するギャラリートークが6日、開かれた。山梨県内の神社や農地、美術館の敷地内で土を採取し、その土の色

の違いを生かして色彩豊かな作品を描いた浅井裕介さんが、観覧者とともに展示室内を歩きながら、自作のテーマや制作の経緯を解説した。「種をまく人」が展示された壁面に大きく描かれた、浅井さんの作品「移動と輸送」は、自然界で人や動物が移動することで足の裏に付いた種が別の場所に広がっている。

作品について語る浅井裕介さん
|| 甲府・県立美術館

床面に5×10畳の大きさを広げる「命の寝床」は、作品の中に設けられた道を歩きながら鑑賞できる。共同制作者として募ったボランティアとともに約2週間かけて制作した。いずれもスケールの大きな作品のため、展示終了後はカットするなどして会場から搬出する可能性が高い。浅井さんは「ここで作られ、ここで消えてしまう作品。ミレーと一緒にぜひ見てほしい」と話していた。

特別展は、同館が所蔵するミレー作品を四つのテーマに分け、それぞれ呼応する現代作家4人の作品とともに展示している。27日まで。20日午前11時から、ファッションデザイナーで教育者の山縣良和さんが作品について話す。
(村上裕紀子)

(2023年8月7日付 山梨日日新聞 16面)

問1 県立美術館で「ミレーと4人の現代作家たち-種にはじまる世界のかたち-」が開催されています。

浅井さんの作品「移動と輸送」は、どこで採取した土を使って描かれていますか。

.....

問2 「移動と輸送」は、どのような現象をモチーフに作成されていますか。

.....

.....

問3 「命の寝床」は、どのように鑑賞できますか。

.....